

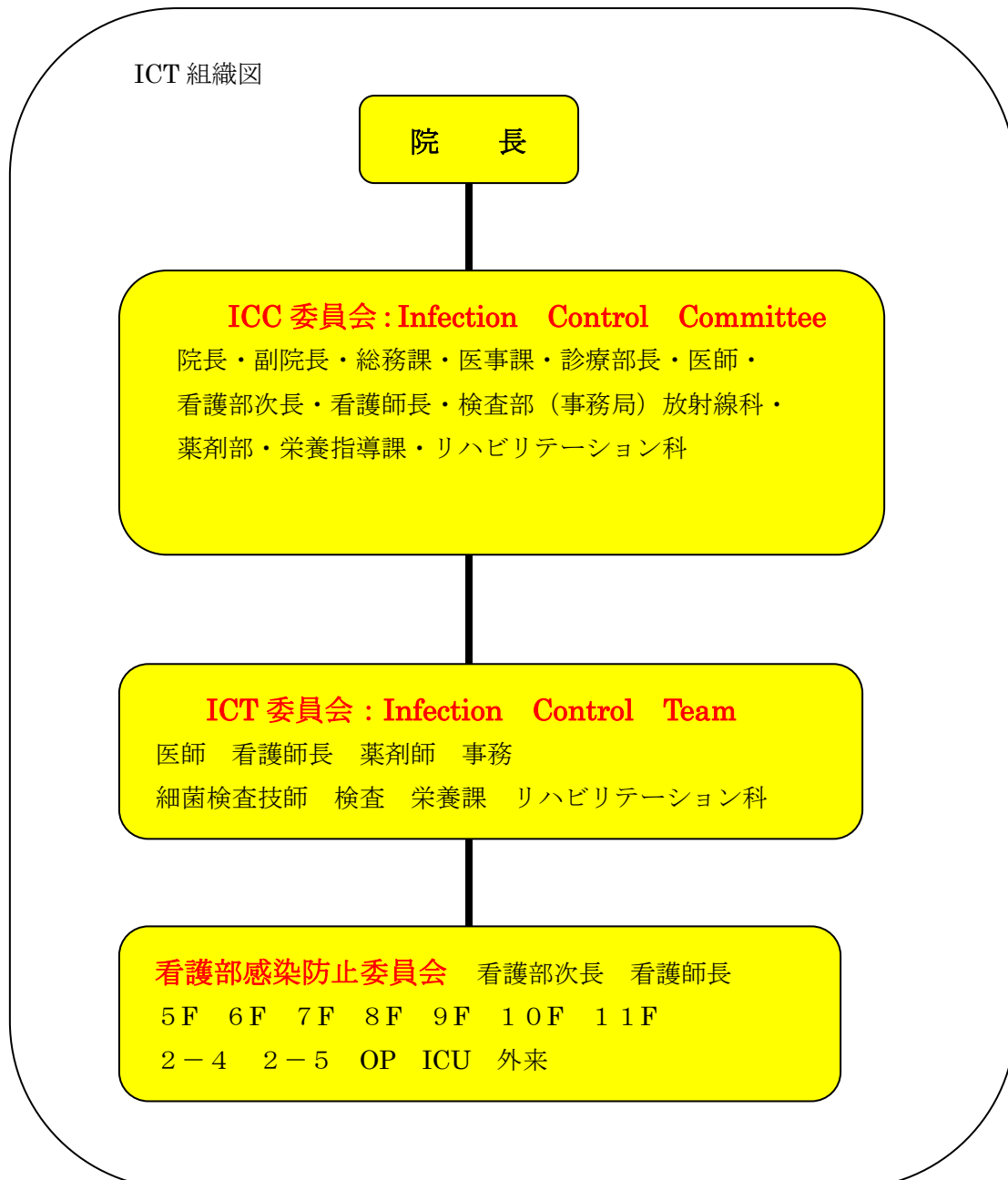
ICT・ICCの活動状況

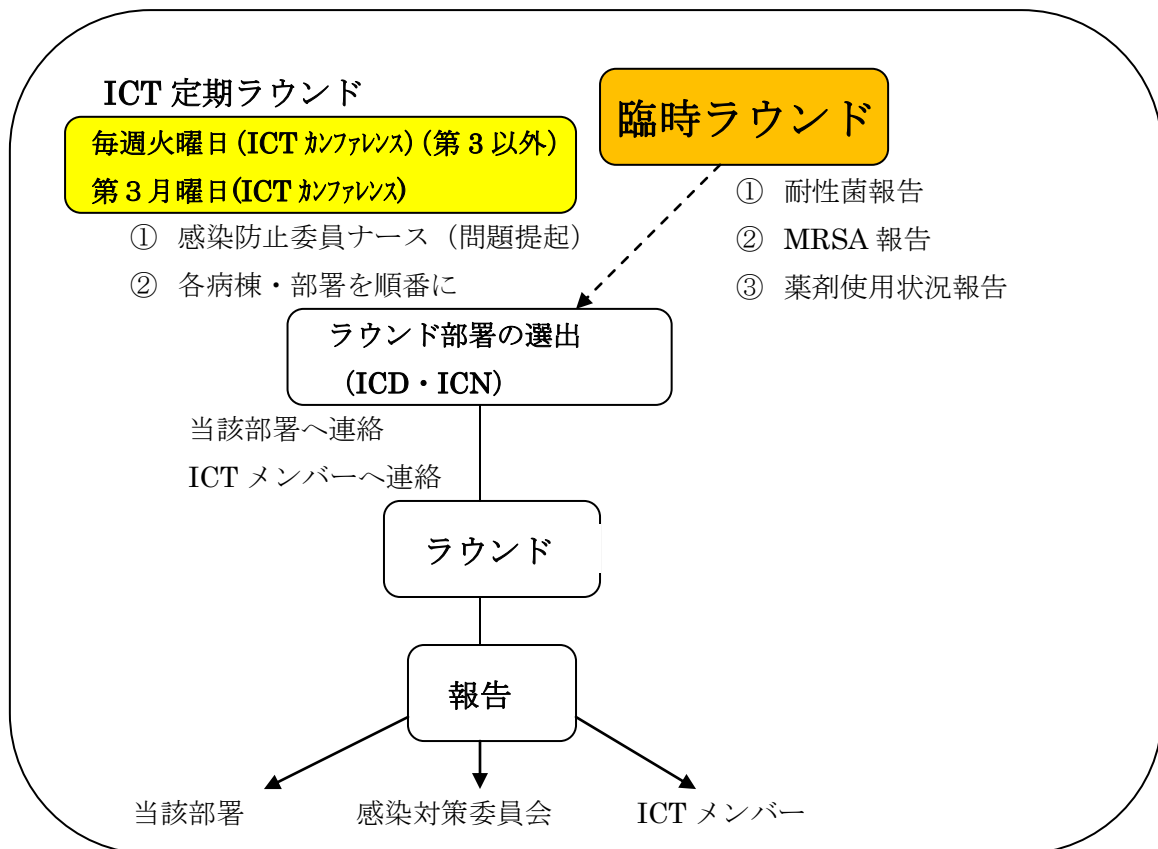
西宮病院では、現在ICNがない状態で活動しており、ICNの役割を看護師長や感染防止委員の看護師が担っています。ICNがないことでそれをカバーするために柏崎医師を中心として全員が一丸となって活動でき、非常にチームワークが良いです。感染が発生したらすぐに招集をかけて検討します。医療廃棄物の処理するための容器の管理や、感染防止製品の管理も行っています。

また、感染防止に関する医療材料の選定もフローを作成しており、勝手にそれぞれの部署が提案できないようにしています。使用する前には必ずアンケート調査し、コストパフォーマンスの調査もした上で検討します。ICTが関わってコストダウンした成果は数百万になります。今後も一丸となってチームワーク良く活動していきます

ICTラウンドマニユアル

ICT組織図





定期のラウンド

目的：現状の早期把握と対策を立てるためにラウンドし、対策を立て実践を促し院内感染（アウトブレイク）の防止をはかる
スタッフの感染防止意識を高める

方法

1. ラウンド病棟の感染防止委員ナース A は自部署の感染防止チェック表に基づきチェックする
2. 14:30 予定のラウンドメンバーは 4F の検査室カンファレンスに集合
3. 感染防止委員ナース A はチェック表に基づく報告と感染患者の状態を報告、現状の問題点、疑問点について提案する
3. 薬剤師より提出された薬剤使用状況を把握
4. 細菌検査技師より耐性菌や MRSA の報告
5. ICT 看護師長より部署にラウンドに行くことを連絡
6. ラウンド部署に行き、ICT 看護長とラウンド担当の感染防止委員ナース B は実際の状況をチェック表に基づきチェックする
 - ① 現場の環境（スタッフステーション内のシンク・汚物室・処置室などの清掃状況）
 - ② 医療廃棄物の適切な処理（感染性医療廃棄物・針ボックス・その他分別状況）
 - ③ スタンダードプリコーションの遵守状況と擦式アルコールの使用状況

④耐性菌や MRSA 患者のケアの確認と医療廃棄物処理状況を直接患者の所に訪問し確認（患者には感染症であることの説明と同意はあらかじめしておくことが前提）

訪室は 2 名位とする（当該看護長が患者に訪室の許可を得て置くこと）

説明と同意が無い場合の対応

「院内感染対策チームから確認の訪室があります。たくさんは入りませんのでご了承ください」と説明

8. その中からできていないことがあれば、直接指導する
ラウンド病棟の感染防止委員ナースAは、指導を受けたことを改善に向けて行動する
9. ラウンド後カンファレンスを病棟スタッフとともに行う
10. 対策について全体で協議が必要な場合はその場ですぐに決定せず、ICT 委員会に提案する
11. ICT 委員会で承認後、ICC 委員会で最終決定
12. 決定事項の実践（各委員に分担し、作業する）

臨時 ICT ラウンドの方法

- 1 細菌検査技師より菌の検出を認めた場合 ICT 委員長の柏崎医師に報告
- 2 細菌検査技師より当該部署の看護師長に報告、ICT 委員の看護長に報告
- 3 柏崎医師より臨時招集をかけ臨時ラウンドの決定をする
- 4 集合できる ICT メンバーが集合し現状把握し、感染防止策について話し合う
- 5 現場の問題点を抽出し、アドバイスする
- 6 対策はすぐに決定し、すぐに行動しなければならない時は委員長が ICC 委員長に報告し承認を得る
必要な場合は臨時 ICC 委員会を開催要請する
- 7 ICT 看護師長より各部署に対策について報告、実践依頼する
- 8 対策の実践状況を再度ラウンドし確認する

